

金メダルへと導いた ゴールドネイル

ミラノ・コルティナ大会のノーボード男子ハーフパイプで金メダルを獲得した戸塚優斗選手。圧巻のトリックで日本中を熱狂させ、表彰式で見せたネイルも大きな話題となりました。アスリートにとってネイルとは？スノボへの思いとともにその魅力を語っていただきました。

Yuto Totsuka

INTERVIEW

ノーボード男子ハーフパイプ
戸塚優斗選手

— 金メダルおめでとうございます。改めて大会を振り返ってみて、どんなお気持ちでしたか？

ミラノ・コルティナ大会は、今までで一番レベルが高い戦いでした。普段予選では、高難度の技を入れてこないのですが、みんな攻めていました。1本目に「これくらいだろう」と思って滑ったら、後ろの選手が続々とすごい点数を出してきたので、「2本目はちょっと攻めないとまずいな」と焦りましたね。同時に「予選でこれなら、みんな決勝ではどんなすごいことをやるんだろ」とワクワクしました。

冬季五輪は、平昌、北京と今回で3回目

絵を描くのが好きで、お料理もプロ級。遠征中はヘアカットもカラーも自分でしているという器用な戸塚選手ですが、ネイルだけはプロにお任せするのが一番とか。お気に入りのファッションはネイルと同様かわいい系。おしゃれをすることがいい気分転換になるそうです。

衣装協力/MAISON SPECIAL



©SFIDA

高さや軌道の美しさが桁違いの戸塚選手のトリック

表彰台に立った時は、それこそ夢みたいな状態で、自分の名前が最後に呼ばれて真ん中の一番高いところに立った時は、感激ですごく泣けてきました。

— 表彰式では戸塚選手のネイルも注目されました。

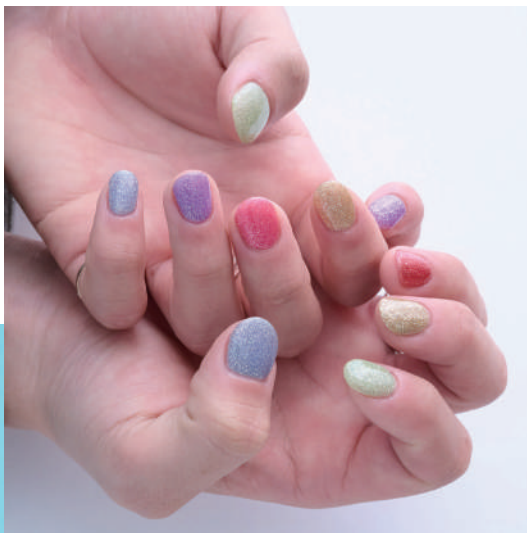
決勝の前夜に、ネイリストの彼女と自分の母親が会場に来てやってくれました。ずっと海外にいたので2ヶ月くらい地爪のまま、甘皮も伸びていて、テンションが上がらないなと思っていたら「ネイルしたほうがいいよ」と言ってくれて。決勝で自分の気持ちを高められるように、願掛けの意味も込めてジェルネイルをしてみました。やっぱりネイルの効果は大きかったですね。ネイルにゴールドを入れたのは彼女のアイデアです。僕は、ブルー系をリクエストしただけですが、硬化用のライトまで一式持ってきてくれて、フラッシュネイルしてくれました。

自分のランを動画で確認する時など、スマホを持つとネイルが目に入るから、その度に「頑張ろう」と思えて。そんな些細なところでも、ネイルが勇気づけてくれました。

他の選手のランを待っている時もグローブを外して、「寒いな」と思いながら、「ネイルを見て」って思っていましたね(笑)。

優勝することができて、ネイルも知ってもらえたので、すごく良かったと思っています。

かわいい系のネイルが好きな戸塚選手は淡い色のフラッシュネイルをしてきてくれました



戸塚優斗
2001年生まれ、神奈川県横浜市出身。2歳の時からスノーボードを始め、小学校低学年でハーフパイプにチャレンジ。小学5年生で日本スノーボード協会公認プロ資格を取得。第23回全日本スキー選手権大会スノーボード競技男子ハーフパイプで、強豪を抑え中学3年生で優勝。高校1年生でワールドカップシリーズハーフパイプに初出場して優勝。同シーズン総合優勝を獲得。以降も国際大会で活躍し、2018年平昌、2022年北京、2026年ミラノ・コルティナと3大会連続で冬季五輪に出場。今季、ショーン・ホワイトが創設した新リーグ「ザ・スノーリーグ」でも初代チャンピオンに輝いた。



金メダリストとしてスノボ・ハーフパイプを牽引する

——そもそもネイルをしようと思ったきっかけは何ですか？

Mrs. GREEN APPLEが大好きで、インスタなどで手元を見て「いいな」と、ネイルに興味を持ちました。初めてした時からハマって、もう地爪じゃ落ち着かないくらいです(笑)。

ネイルサロンで施術してもらっているので、シーズン中は海外に行く前にネイルをして、日本に帰ってきたら急いでまたネイルしています。

——戸塚選手が最初にネイルをした時、周囲はどんな反応でしたか？

2年半くらい前、僕が突然ネイルをしてきたので、まわりはみんなびっくりしていましたね。男の人がネイルをしているのを見慣れていないから、一番仲がいい平野流佳選手も「えっ！」ってなっていました。外国の選手からも「なんでネイルをしているんだ？」って聞かれたりして、「かわいいからだよ」って言ったら「あ、そうか、そうか」って納得していました(笑)。今ではすっかり馴染んで、「僕もやってみようかな」という選手も出てきました。

僕がネイルをしているのは各国選手も知っているので、ロシアの男子選手がネイルを見せてくれたり、特に海外の女子選手からの反響は大きいですね。「今回はどんなネイル？」って、いつもその会話から挨拶が始まるくらい。お互いのネイルを見せ合って盛り上がっています。

——選手は競い合う中でも互いにリスペクトしていて、そもそもスノーボードの魅力だと感じます。

スノーボードは選手同士が本当に仲がいいし、「今の滑りはここ良かった」「良かった」「次はこうしよう」と、みんな滑りの感想を言い合ったり、アドバイスし合ったりしています。

高難度のトリックをするのは怖さもあから、自分ができないことをやっている



ネイティブルの撮影のために金メダルを持参してくれました

人がいたら純粋に「すごい」「教えてほしい」ってなります。そして教えてもらったらその自分も教えよう。

なかでも日本チームは何でも言い合えるし、みんなでご飯を食べたり、みんなでゲームしながら寝ちゃったり。そういう普段からの付き合いが、切磋琢磨できるいい関係性を生んでいるのだと思います。

——今五輪では、戸塚選手はじめ日本人選手の強さが世界でも注目されました。

日本チームが強くなったのは、日本人らしい気真面目さが大きく影響していると思います。妥協しないし、練習も朝一番に行っている最後の最後まで残っているのは、日本人だけなんです。そうやってみんなが強くなっているから、日本代表に残るためにもっと上を目指さなきゃいけないとまた頑張る。

そういうのがどんどん繋がって強くなっていったと思います。

あと器用なところも日本人の強みですね。高回転も低回転も、人とは違った見せ方ができるんです。

——金メダリストとなった今、今後の目標を教えてください。

トリックは回転数だけではないと、今大会で証明されたと思っています。人がやってないクラブや技を入れないと点数が出ないことを身に染みるくらい感じています。そこを大事にしていきたいと思っています。金メダルを獲った身として、もっともっとレベルを上げていかなきゃいけないという責任感も感じているので、新しい技や回転を極めて、自分にしかできないルーティンを見せていきたいです。